（別紙4）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活動法人　おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム　あっとホーム黒髪		
所在地	〒857-1152　長崎県佐世保市黒髪町6515番地27		
自己評価作成日	平成21年11月23日	評価結果市町村受理日	平成22年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/index.html

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855－0801　長崎県島原市高島2丁目7217　島原商工会議所1階
訪問調査日	平成21年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは今年、来年と町内会の役員を仰せつかりました。町内の行事には職員は裏方として、利用者は楽しむ側として参加させて頂いています。それ出来るのも職員同士のの協力があってこそです。当ホームの職員は文句も言わず笑顔で引き受けてくれています。おかげで利用者にも笑いが絶えません。管理者を含め未熟なものが多いホームですがこの笑顔は何事にも代え難い宝だと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員の更なる質の向上を目指して、これまでの職員を育てる場所プラス専門性を育む事業所として、昨年から専門的キャリアを有した職員の採用をされ、この1年でこれまで築いてこられた和やかな家庭的な雰囲気の中に介護のプロとしての専門性が活かされて、一生懸命の介護に余裕が感じられるホームに成長されている。利用者一人ひとりが個性を出しつつも周囲を思いやる気配りを持たれており、利用者と職員もお互いを助け合いながら共同生活を営まれている。また、地域へも配食サービスを通した安否確認や虐待による一時避難場所として貢献されており、今後も、素人的要素と専門的要素を兼ね備えた地域になくてはならない「あっとホーム黒髪」としての活躍が期待されるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「限りなく家庭的な雰囲気の中でその人らしく」という理念を実践する為に朝のミーティングでは理念を唱和し常に理念を忘れないように心がけている。	地域に溶け込んだサービス提供の場として「初心に帰ること」を常に心がけされ、笑いの絶えないホームを目指されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は当事業所は地域の一員として町内会の班長、副区長を、来年度は区長を努める事になっており、町内行事にも積極的に参加している。	自治会の役員を一般家庭同様に輪番制で担われるなど、事業所自体が地域の一員として地域に溶け込まれている。今後は、公民館行事等を通して利用者も地域とつながりながら暮らせる環境の継続支援を目指されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の交流を通して認知症についての話をしたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、ご家族代表、利用者代表の方の意見を聞きサービス向上に活かしている。	概ね2ヶ月に1回開催されており、利用者代表の現場環境に対する率直な意見も頂戴されている。また、会議中の雑談に本音やヒントを見出されることもありアンテナを高くして会議に臨まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人で行っている配食事業を通して市、地域包括支援センター、民生員等と交流が図れている。	町内会活動や配食サービスの配達時の気づきなどを、管轄担当者と双方向の連携した取り組みにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月入った新しい利用者が落ち着きがなく徘徊等有ったため玄関の施錠をせざるを得なかったが、施錠をしないことが当たり前と言うことを職員の共通認識としてあり、現在は玄関は開放している。	接遇マナーの研修等を通して身体拘束やプライバシー保護等も含めた業務提供を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で接遇マナーの勉強会を行い言葉の暴力等にも注意を払っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加をし学びたいと思っているが、機会に恵まれなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に対して、十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどが職員に直接意見を言われている。意見を言いづらいと思われている方のためには、意見箱も用意している。	利用者や家族の意見又は満足度等は把握されているが、取り組みや改善の報告に不足があるのは否めない。	改善に向けた対策や内容をお伝えすることで事業所の意欲や取り組み姿勢をアピールし、利用者のニーズを把握した運営が展開されることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング時に意見を聞いたり、毎月職員会議を開催して意見を言ってもらっている。また必要に応じて理事長にも出席してもらっている。	法人の取り組みとして勤労学生や登校拒否学生等の自立支援や社会復帰を目指した支援として雇用対応されている。卒業や資格取得による旅立ちが重なり、昨年1年間に職員の入れ替わりが異動も含め、二桁の数字になり、対応策として職員の名札着用に着手されている。NPO法人として民主的で透明性の高い運営をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金面では職能給など取り入れ、また介護職員処遇改善交付金も申請し理事長自らが全職員にこのことを伝えている。勤務時間については職員の状況に応じた柔軟な対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として研修には積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会などを通じ同業者との交流を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その都度向き合って傾聴し安心して頂けるような関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、思いや要望等、居宅ケアマネを交え傾聴し良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームでは初めての経験であったが透析療養中の利用者の入所があり、週3回の通院サービスも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵や趣味（料理、麻雀など）を教えてもらいながら職員も勉強させてもらっていると言う意識での介護を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と本人の絆の大切さを理解しており、問題発生時等、ご家族と一緒に考えながら、本人の思いを優先させている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの行きつけの美容室や、高齢になり面会に来られなくなったご家族に、本人とこちらから出向いていって関係作りを行っている。	利用者の菩提寺と永大供養についての確認を本人の記憶を辿りながら代行されたり、友人関係や趣味などを通した馴染みの関係継続の支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないようその方の長所等を伝えたり、一緒に作品作りをしたり、みんなで歌ったりと良く笑い楽しく生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が面会に行ったりご家族に近況をお伺いしたりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を聴くように努めている。本人から希望を仰って下さる場面もよくある。	利用者とのコミュニケーションや観察、家族からの生活歴等による情報提供を考慮して本人の思いや意向の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には職員全員でミーティングを開き生活歴等を把握、さらには本人やご家族との会話を通じ生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングで前日の状態等を把握している。またミーティングに参加できなかった職員は生活日誌を見たり、他の職員に確認したりして一日の過ごし方を把握するように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議による3ヶ月毎の計画の見直しと次回の計画についての改善点、反省、新しく取り入れたい提案等の意見を反映させている。	職員一人ひとりが介護スキル自己評価シート作成や利用者の現状把握につながる認知症把握のための分析シート作成の取り組みをされている。また、日課計画表は介護計画と共通サービス等を記載されたものをケース記録の表紙ファイルに添付し、それをもとに日々のケース記録をとられ、計画の把握とモニタリングにつなげられており、職員の意見やアイデアが計画の見直しに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌を改良し見やすく記入しやすいようにし、また赤ペンも使用し、気付きや情報が記録の中に埋もれてしまわないように、共有しやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お孫さんの結婚式への出席のための支援や選挙の投票などの支援も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり近くの小学校の児童との手紙にやりとりなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には継続で診察して頂き、本人及び家族の希望を取り入れている。	緊急時は協力医に連絡し、指示を仰がれると共にかかりつけ医や協力医の連携のもと、適切な医療受診につながる支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は些細な気付きでも自分の判断で行動せずに、看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後主治医の今後の治療にあたっての説明に家族と共に職員も加わり話を聞きを聞きその方にとって何が一番良いことなのか検討した例がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の判断ではグループホームでの生活は無理ではないかとの方がいらっしゃったが、家族の希望を受け医師、家族職員で話し合い、ホームでの生活を支援して行くこととなった例があるが、他の利用者では早い段階での終末期に向けた話し合い、方針の共有は今後の課題である。	家族や医師には、利用者の状況は随時伝えられており、段階を踏んだ話し合いや医療連携を踏まえた取り組みをされている。	終末期や重度化した場合の職員としてのケアの統一を目指した方針とサービス提供に繋がる研修に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実行が出来ていないのが現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、防火訓練は行っているが地域との協力体制が出来ているとは言い難い。	防火訓練時に消防署から厳しい評価を頂き、それを教訓に想定される対策について職員間で話し合われ、アイデアをまとめ現状に即した対応策を作成されている。また、対応マニュアルも目に付くところに掲示されている。1階にはカラー刷りの避難経路図が目線の高さで掲示してある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格身体状況をはあくしその方に合った声かけ対応をしている。特に排泄に失敗された方に対してはプライバシーに配慮し、本人の気持ちを傷つけないような声かけ及び介助を行っている。	利用者が所持金について話される時は、さりげない誘導で場所を変えるなどして、1対1の対応を心がけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のレクリエーション時、自分の好きな歌をリクエストされたり、貼り絵の際は活発な意見も出されている。テレビや広告等で好物を発見すると「食べたいね」等利用者同士で会話されている・		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時以外は居室へ行く人、玄関前や外へ花や野菜を見に行く人、リビングで音楽を聴く人等と一人ひとりの希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により美容室へ同行したり、外出時も好みの服を着られるように支援している。入浴後も化粧水を自由につけられるようにしているし、起床時にはヘアコンディショナーを使用し整髪をしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の得意な料理をメニューにあげ一緒に作ったり、野菜の皮むきやカットをお願いして食事中はその日のメニューについて会話を交わしおいしく食べられているか様子観察している。下膳もできる方にはお願いしている。	自立摂取困難で完全援助の利用者も他の利用者と同じように食堂に配置し、人の気配や匂い、音など五感に響く環境で食事援助されている。他の利用者も特別視することなく優しい眼差しで見守っており、嗜好や味の批評など食事を通した会話を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べきれる量を提供し、おかわりは自由にされてある。水分量の少ない方やお茶を好まれない方には時間を限らず、お好みの水分がとれるよう支援している。宗教上の理由で肉魚が食べられない方には別メニューで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声かけ、誘導し、自分でできる方でも磨き残しのチェックをしたりしている。また舌苔のある方には舌もブラッシングして頂けるよう声かけをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめに声掛けをしトイレでの排泄ができるように支援している。尿意を訴えられなかった方でも声かけ誘導を続けることによって、最近は尿意を訴え、トイレでの排泄が多くなり、パッドの使用量削減に成功している。	間接的ではあるが筋力低下防止の健康体操などの取り組みで、可能な限りトイレでの排泄支援に努められている。また、オムツの弊害は十分理解されているがやむを得ず夜間だけオムツを使用されている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日健康体操を行っている。天気の良い日には散歩や日光浴の声掛けをしている。食事も野菜を多く取って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まってはいるが、それにとらわれずにシャワー浴をされる方もいらっしゃるし、希望される方には入浴して頂いている。入浴日でも時間帯は本人の希望に添った時間帯にしている。	入浴後に化粧水をつけられる利用者や洗顔の仕上げに水を使う利用者など習慣を大事にした支援に努められている。また、入浴拒否者への対応はタイミングを見計らった声かけで支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し昼間でも居室で休んで頂きたい方には休んで頂いているが、夜間の良眠を妨げるような事にならないように注意をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は何時でも職員が確認できる所においてあり、症状の変化が現れた時には看護師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日歌の時間を設け歌の好きな人には中心的な役割を担ってもらったり、作品作り等ではその方の出来ることに合わせた作業をしてもらい達成感を味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはドライブや買い物に誘ったり、ホームでの行事では少し遠出をしたり、夜でも外に出たそうな方にはドライブに誘った事もある。	入居者の高齢化に伴い外出の頻度や機会も減少傾向ではあるが、身近な支援として日光浴やホームから外へ出て、外からホームを見てもらい窓越しの中に居る職員や入居者に手を振るなど、立場を変えた試みもされている。また、ホームの食料品を職員と一緒に買い出しに行かれることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、能力に応じて所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望された時は職員がダイヤルしお話ししてもらったり、手紙の希望があった時には直ぐに便箋とペンを用意している。また居室内に電話を引いておられる方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように配慮している。季節に合わせた作品を廊下に貼ったり、花を飾ったりしている。	廊下にはベンチや椅子が効率よく配置されており、休憩やぼんやりできる環境の提供につながれている。また、1階廊下の掃き出し窓からは田園風景や山並みを望むことができ、外庭にも自由に出られるようになっており園芸の世話も可能である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の椅子の他ソファーを置き自由に利用できるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では本人の使い慣れた家具を置いて頂いている。仏壇を持ち込まれている方もあり本人の希望に添った空間になるようにしている。	利用者さんによっては、自分で模様替えをされて気分転換を図られたり、快適で自分が落ち着ける場所作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の意見を聞き手摺りの増設をし安全に歩行できるようにした。		